

---

# セーラー服の純情

ミズキシホ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

セーラー服の純情

### 【Nコード】

N5926C

### 【作者名】

ミズキシホ

### 【あらすじ】

こういっ方を見かけた事がありますか？都会にはたくさんいるのかなあ。田舎にはほとんどいません笑

数年前。

あるスーパーに行った時のこと。

わたしが、店を出ようとしたとき、  
入れ違いに、

セーラー服の子が入ってきた。  
高校生だろう。

ルーズソックスで、  
それなりにスカートは短くて、  
背は高くもなく、低くもなく、  
スラリとしていて、

顔は、

ギョツ…。

セーラー服の「子」??

おじさんだ。

しかも、

限りなく、

おじいさんに近い。

ちなみに、髪型は、  
オカッパ。

呆然。

なんとか、

その場ではフリーズすることなく、  
外に出たけれど、  
外に出てから、

強制終了

リアルブラクラだな。

振り返りつつ、  
立ち尽くしてしまった。

いまのは……………、…、ナニ？  
見間違い？

言い間違い、聞き間違いはよくするけれど、  
今度は見間違い？

マサカ、

気のせい？

その店は、  
自動ドアを入るとすぐ左手にトイレがあつて、  
店内に入るには、  
もう一枚、自動ドアがある。

そのセーラー服は、  
そそくさと、

店内への自動ドアの中へ入っていき、  
わたしの視界から消えた。

それでもなお立ち尽くすわたし。

### 再起動中

戻るべきか否か。

この疑問を解消すべきか、直ちに?!

と考えていたら、

セーラー服が戻ってきた。

ヤバイ。

見られていたと知ったら、

気分が悪いだろう。

立ち去ろう、

と思った瞬間、

セーラー服は、

トイレへと消えて行った。

トイレか。

そうかそうか、

じゃあ、いまのうちに立ち去ろうか。

ん？

待て。

ちよっと待て。

いまセーラー服が入っていったのは、

女性用じゃなかった？

再起動完了

というわけで、  
疑問を解消すべく、  
大至急クルマに戻るわたし。

店の正面で、  
少し離れて店の明かりの届かないところに、  
クルマを移動。

（夜でした

ここから見えていよう。  
幸い、夜なので、  
あちらからこちらは見えなはずだ。

出てきた。

やはり、女性用だ…。

まあ、そういう趣味なんですよ…。

でも。

と、ここで、

自分の目と脳に疑問をもつわたし。

ほんとにおじさんだった…？

イヤイヤ、あれは女子ではない。  
断じてない。

五百歩譲って男性じゃないとしても、

若い子ではナイ。  
断じてナイ！！

あの目の下のたるみ、  
しわ、

生気のない目、  
あれは、  
とりたて新鮮ピチピチじゃない。

干物だよ。

と、

なんだかんだと、  
自問自答していたら、

セーラー服が店から出てきた。

そして、

店の脇へと足早に消えていく。

クルマを移動させるわたし。

セーラー服が、

大きな四輪駆動のクルマの陰に消えたと思ったら、  
パツと点灯する車内灯。  
乗り込むセーラー服。

運転席へ。

女子高生は運転しません！  
当確！！

その帰り道、わたしは、友達の家へ。

今見てきたことを話す。

友：「カメラでも仕掛けてきたんじゃないの？そいつ。」

ああああ、その可能性、  
わたしにはまったく考えも及ばなかったよ…。

わたしが考えた可能性。

1・何かの罰ゲームである。

2・女装が趣味である。

3・童心に帰りたい。

友：「でも、まあ、ミズキちゃん、  
トイレを済ませたあとで、よかったねー。」



実は、そのセーラー服が入る前に、  
わたしも、トイレに入っていたのである。

そうだよね、あはははー、  
なーんで、ひとしきり盛り上がった後、

「まあ、ひとそれぞれの趣味だからねえ。」

とオチがつき、  
楽しく酒を酌み交わしたのである。

ところで、この話、  
別な友にしたところ、

友2：「仕掛けたカメラを、

「回収」しに行ったところだったりして。」

問題が発生したため、終了します。ご不便をかけて申し訳ありません。  
ん…。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5926c/>

---

セーラー服の純情

2010年10月12日13時00分発行